

東通原子力発電所温排水影響調査

(海洋生物調査：イカナゴ)

(要約)

今村 豊¹

目 的

東北電力東通原子力発電所の温排水が、周辺海域の主要魚種であるイカナゴに与える影響を把握するため、漁獲動向調査、標本船調査、仔魚分布調査を行った。なお、本調査は、青森県の原子力発電所温排水影響調査事業の一環として実施した。

材料と方法

1. 漁獲動向調査

白糠漁業協同組合と泊漁業協同組合からの聞き取りによりイカナゴ漁獲量を調べた。

2. 標本船調査

平成25年4月～6月に白糠漁業協同組合と泊漁業協同組合所属漁船8隻を光力利用敷網漁業の標本船とし、東通村尻労沖から六ヶ所村高磯崎沖のイカナゴ漁場を10海域に分割し漁場別漁獲量を集計した。

3. 仔魚分布調査

平成25年2月～4月各月1回、白糠・泊地区周辺海域の10地点において、試験船開運丸によるボンゴネットによる水深0～50mの往復傾斜曳を約10分間行い、仔魚の分布密度を調査した。

結 果

1. 漁獲動向調査

平成25年の両漁協のイカナゴ漁獲量は9トンと低い水準であった(図1)。

2. 標本船調査

平成25年のイカナゴ漁場は、区分した10海域のうち小田野沢海域で最も漁獲量が多かった。

3. 仔魚分布調査

平成25年のイカナゴ仔魚平均分布密度は2個体/100m³で、平成24年の1個体/100m³と同程度の低い値であった(図2)。

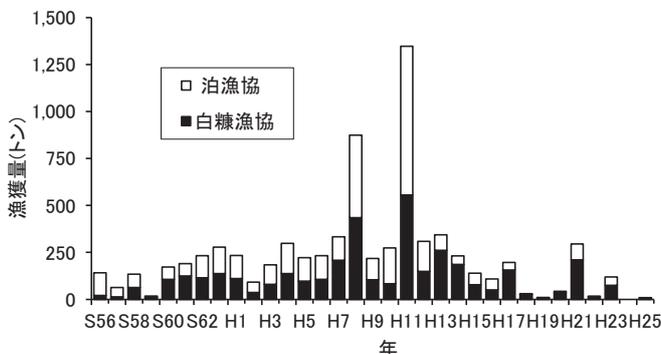


図1. 白糠漁協と泊漁協のイカナゴ漁獲量。

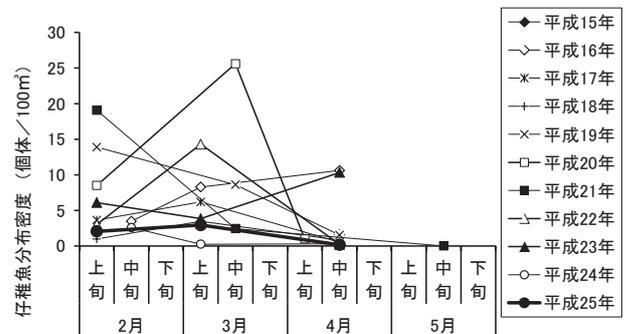


図2. イカナゴ仔魚の推定分布密度。

¹ 青森県農林水産部水産局水産振興課